シリーズ
地域の再生 20

有機農業の技術とは何か

土に学び、実践者とともに

中島 紀一

著者略歴

中島紀一（なかじま きいち）

1947年埼玉県生まれ。東京教育大学農学部卒。東京教育大学農学部助手、筑波大学農林学系助手、鯉淵学園教授を経て、2001年から茨城大学農学部教授、2012年から茨城大学名誉教授。専門は総合農学、農業技術論。茨城大学では付属農場長、農学部長などを務めた。また、日本有機農業学会の設立に参画し、2004年から2009年まで会長を務めた。民間運動の面では有機農業推進法制定に先立って「農を変えたい！全国運動」を提唱し、その代表を務め、現在はNPO法人有機農業技術会議の事務局長。

〈主な編著書〉

『食べものと農業はおカネだけでは測れない』コモンズ、2004年
『地域と響き合う農学教育の新展開』（中島紀一編）筑波書房、2008年
『有機農業の技術と考え方』（中島紀一・金子美登・西村和雄編）コモンズ、2010年
『有機農業政策と農の再生——新たな農本の地平へ』コモンズ、2011年

シリーズ 地域の再生 20
有機農業の技術とは何か
土に学び、実践者とともに

2013年2月28日 第1刷発行

著者 中島 紀一

発行所 社団法人 農山漁村文化協会
〒107-8668 東京都港区赤坂7丁目6-1
電話 03(3585)1141（営業） 03(3585)1145（編集）
FAX 03(3585)3668 振替 00120-3-144478
URL http://www.ruralnet.or.jp/

ISBN978-4-540-09233-6 DTP制作／ふきの編集事務所
〈検印廃止〉 印刷・製本／凸版印刷㈱
© 中島紀一 2013
Printed in Japan 定価はカバーに表示
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

シリーズ地域の再生20

有機農業の技術とは何か——土に学び、実践者とともに

目次

まえがき——1

第1部　自然共生型農業としての有機農業の技術論

第1章　自然共生をめざす有機農業の技術論——12

1　「低投入・内部循環」の有機農業技術論　12

2　「自然共生」の有機農業技術論へ　17

3　自然共生論と成熟期有機農業論　29

4　農の世界の独自性と普遍性　33

第2章 「低投入・内部循環・自然共生」の有機農業技術論確立へのプロセス―― 43

1 確立されていなかった有機農業技術論 43
2 有機JAS制度と有機農業技術論の歪み 46
3 有機農業技術論確立への模索 53

第3章 実践農家にみる有機農業技術の到達点――「低投入・内部循環・自然共生」の有機農業の個性的なあり方―― 73

1 くず小麦草生野菜栽培 戸松正さん（帰農志塾・栃木県那須烏山市） 75
2 冬草田んぼ――草が土をつくり、稲を育てる 舘野廣幸さん（栃木県野木町） 80
3 冬草、夏草の交代のリズムに合わせて野菜が元気に育つ 松沢政満さん（愛知県新城市） 84
4 山村環境を活かした施設野菜づくり 小川光さん（福島県喜多方市） 90
5 耕作放棄地がそのまま農の場に 浅野祐海さん（茨城県阿見町） 95
6 大豆と麦の導入で水田農法の高度化を図る 浦部修さん（群馬県藤岡市） 99
7 北の大地に有畜複合農業を築く 本田廣一さん（興農ファーム・北海道標津町） 102

第2部 有機農業とはどんな農業なのか

第4章 有機農業は普通の農業だ――農業論としての有機農業―― 108

1 有機農業とはどんな農業なのか 108
2 有機農業技術の骨格――「低投入・内部循環・自然共生」の技術形成 113
3 有機農業技術展開の基本原則 123
4 有機農業技術の特質 128
補節 リービヒ物質循環論の理論的欠陥と有機農業 131

第5章 農業技術と農法の一般理論―― 139

1 農耕の土地と非農耕の土地 140
2 農業技術の三つの主体的契機 141
3 農業技術から農法へ 149
4 自然共生型農業の展開と二次的自然の回復 153
5 農業・農村環境政策の枠組み 155
補節 「品種」と種採りについての農学的考察――「品種」は私的所有権と馴染まない 160

第6章　有機農業における土壌の本源的意味——171

1　土壌の定義と土壌の世界　171
2　有機農業についての基本認識　173
3　農業における自然力　175
4　土壌は森林でつくられる　177
5　土壌の自然力と肥沃度　178
6　分割され私的所有される自然力　180
7　近代農学における地力論　180
8　農業経済学における土壌の認識と地代論　183
9　地代論形成のプロセスでの抽象化の陥穽　184
10　私たちの「べつの道」　188

第7章　近代農業と有機農業——技術論の総括として——191

1　技術論から見た近代農業の仕組み　191
2　メドウズ『成長の限界』にみる農業川下産業論　198
3　メドウズ『成長の限界』に欠けている自然共生の視点　202

4　マルクスの土地とつながった自給的社会論　205
5　新しい時代における農業のあり方論　208
6　自然共生型農業としての有機農業　211

付章1　農地と自然地の相互性——耕作放棄地問題への新しい視点——215

1　「放棄地」の草から見えてくること　215
2　「耕作放棄地」問題から「農地と自然地」について考える　219

付章2　原発事故と有機農業——農は土の力に守られた——235

1　なすすべもない放射能汚染の継続のなかで　235
2　農は耕すことで復興への道を拓きつつある　237
3　食事からのセシウム摂取もわずかなレベル　245
4　食べものの安全性をめぐる論議の亀裂　247
5　原発事故は地域と暮らしを壊した　251
6　原発事故と有機農業　255

あとがき——265